

2023年9月28日所長会見 所感

- 本日は、私から2点お話しさせていただきます。
- はじめに、原子力規制庁による検査の状況です。
- まず適格性判断に関する検査は、9月11日から13日に発電所で現地検査が実施され、当社からはマニュアル類の説明と、7つの約束に関して、仕組みやプロセスを中心に取組事例を説明させていただきました。
- 今後も引き続き検査に真摯に対応するとともに、事業者として更なる安全性向上を目指すために、保安規定の基本姿勢の見直しについても検討してまいります。
- また、核物質防護に関する追加検査の進捗状況については、お手元の資料の1ページ目をご覧ください。
- すでにお知らせ済みではございますが、1つ目の「正常な監視の実現」と、3つ目の「変更管理の運用の徹底」については、それぞれ原子力規制庁へ是正処置が整った事を報告しており、現在、検査を受けているところです。
- 引き続き、残りの2項目について有効性評価を進めてまいります。

- 資料の2ページ目をご覧ください。
- 今年5月に核物質防護モニタリング室を設置して以降、当発電所の核物質防護に関して、様々な気づきがあり、改善を図ってまいりました。その一例をご紹介します。
- 1つ目は周辺防護区域における手荷物検査時の対応についてです。これまではヘルメットに物品を入れた状態で検査を受ける人が多く、持込物品を警備員が見落とす可能性がありました。
- そのため、ヘルメットや工具など大きな物は事前にカゴに入れ、小物類をトレイに入れる運用に変更することで、警備員が確認しやすくなりました。
- 2つ目は入構車両の物品持込についてです。一部の車両で、荷台に多数の荷物が乱雑に詰め込んだ状態であることを確認しました。
- その状態では、車両検査場での確認時間が長くなり、通勤時など入構車両が多い時間帯では、渋滞に繋がることで、警備員へのプレッシャーとなっておりました。
- そのため、持込物品については必要最小限にさせていただくよう、協力企業などへお願いをして、警備員が落ち着いて検査ができるように改善が進んでおります。
- これらの取組については、毎月行われている協力企業の朝礼への発電所管理職の参加、副所長クラスによる所員説明会、私のブログを通して、改善事項をその目的とともに伝え、発電所で働く全ての方々への浸透を図っているところです。

- 引き続きモニタリング室による気付きを改善に繋げ、継続的な発電所のセキュリティ向上を図ってまいります。
- 次に、私が所長に就任して2年が経ちますので、あらためて所感を述べさせていただきます。
- 所長就任以降、常に「現場実態を把握すること」を意識し、私自身、率先して現場に足を運び、所員や協力企業の方々から現場の悩みや問題点を聞き、同じ視点で一緒に課題の解決を図ってまいりました。
- また、所員との対話にも重点を置き、のべ1,000人近い所員と対話を行ってまいりました。所員が本音を話してくれるように、「もらった意見を無視しない、放置しない。」ということ意識し、意見は全てリスト化し、できる限り早く対応状況をフィードバックすることにも努めています。
- そうしたことが所員の心理的安全性を生み、所員同士が信頼し合うことで、いつでも本音の議論ができる組織となり、最終的には地域に信頼される発電所に繋がるものと考えております。
- しかしながら、3号機の高経年化技術評価や書類の紛失事案などを鑑みると、そうした組織になるためには、より一層取組を進める必要があります。
- そのため、普段と異なることがあれば、すぐに私や上司に相談するという事はもとより、上位職者にはメンバーへ積極的に語りかけて、寄り添い、悩みを聞くよう都度伝えているところです。

- その他にも、発電所全体のコミュニケーションを良くするために、昨年4月以降、正門での「あいさつ運動」を毎日実施してきました。
- あいさつは全てのコミュニケーションの基本です。今では、協力企業の皆さまにもご参加いただくようになり、事務所内でも所員同士のあいさつが増えていることを実感しております。
- また、私が日々感じた事をブログ形式でこれまでに400回以上発信してきました。協力企業の皆さまへも私の考えが伝わるようにブログの内容をメールで配信し、企業の皆さまから感想やご意見もいただいております。
- 協力企業の皆さまから「ブログ見ましたよ」と、お声がけいただくなど、就任時に比べて距離がとて近くなってきたと感じているところです。
- そうした取組が所員へも広がり、例えば現場での災害事例では、協力企業の方と一緒に現場を確認して、対策を議論する検討会を実施するなど、横の繋がりも構築されてきました。
- 社外の方々からも、「活気が出てきて変わったと感じる」というお言葉も頂戴するなど、発電所全体の雰囲気は良くなっていますが、地域の皆さまからご信頼をいただくためには、これらの取組を一過性のものとしてはならないと考えております。

- 就任時に、「再び発電所を生まれ変わらせ、今一度地域の方々から信頼していただける安全な発電所にすることが私の使命」とお伝えしましたが、その想いに変わりはなく、所員・協力企業の皆さまとも一体となり、歩みを止めることなく原子力改革を進めてまいる所存です。

- 私からは以上です。